

9月14日／27日

尊貴にして生命を施す十字架の全地の挙栄祭

知るべし、此の祭若し主日に當らば、主日の讃頌も、「ネポロチニ」も、本調の品第詞も、一切主日に歌誦する所を用いず、主日の福音経をも読まず、唯「ハリストスの復活を見て」を歌ふ、すべて本祭の奉事式を用いる。

晩 課

首唱聖詠、大連禱、

土曜日の晩に遇ば、第一「カフィズマ」全分を誦す。若し主日の晩ならば、其の第一段のみを歌ふ。若し他の諸日ならば、「カフィズマ」を誦せずして、首誦聖詠及び大聯禱の後に「主よ、爾によぶ」を歌ふ、第六調に依る。

祭-1

▽祭日経 P880

八句を立つ。第六調

主や汝に呼ぶすみやかに我れに至りたまえ 主やわれに聞
きたま え 主や汝に呼ぶすみやかに我れに至りたま え
汝に呼ぶとき我が祈りの声をいれたま え 主やわれに聞き
たま え ねがわくは我が祈りは香炉の香りのごとく 汝が
かんばせの前にのぼり 我が手をあぐるは暮れの祭のごとく
いれられん 主やわれにききたま え

(句) 主よ、我深き處より爾に呼ぶ。主よ、我が聲を聴き給へ。

十字架は挙げられて、此の上に上げられし者の至浄なる苦難を歌はんことを萬物に勧む、蓋彼は此の上に我等を殺しし者を殺し、我等死せし者を活かし、妝ひて、天に住むに堪ふる者と為せり、慈憐仁愛の主なればなり。故に我等喜びて、彼の名を挙げて、其極めて大なる寛容を尊み歌はん。(三次)

(句) 願はくは爾の耳は我が禱の聲を聴き納れん。

(句) 主よ、若し爾不法を糾さば、主よ、孰か能く立たん。然れども爾に赦あり、人の爾の前に敬まん為なり。

(句) 我が霊主を待つこと、番人の旦を待ち、番人の旦を待つより甚し。

尊き字架よ、モイセイは上に手を伸べ、暴虐なるアマリクに勝ちて、爾を預象せり。爾は信者の令譽、苦難者の堅固、使徒の妝飾、義者の援助、凡の敬虔者の拯救なり。故に造物は爾が挙げらるるを見て、楽しみ祝ひ、至大なる仁愛に因りて爾を以て分れたる者を集めしハリストスを讃榮す。三次。

(句) 主を望み、我が霊主を望み、彼の言を待む。

(句) 願はくはイズライリは主を待まん、蓋憐は主にあり、大なる贖も彼にあり、彼はイズライリを其の悉くの不法より贖はん。

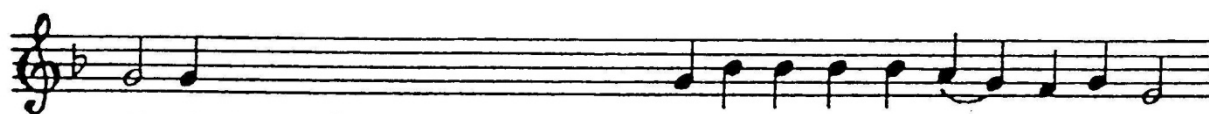
(句) 萬民よ、主を讃め揚げよ、萬族よ、彼を崇め讃めよ。

天軍の楽しみて繞れる最尊き十字架よ、爾は今日挙げられて、神の命を以て、凡そ食を竊むに因りて逐はれて死に陥りし者を挙ぐ。故に我等信者は心と口とを以て爾に接吻して、成聖を斟みてよぶ、ハリストス至仁なる神を崇めて、彼の神聖なる足臺に伏拝せよ。二次。

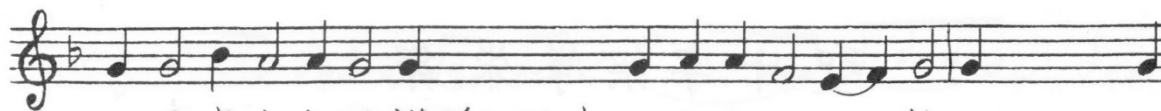
(句) 蓋彼が我等に施す憐は大なり、主の眞實は永く存す。

光榮、今も、第二調。

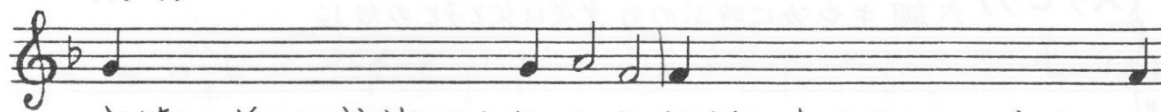
萬民来りて、讃美たる木に伏拝せん、此を以て永遠の義は成就せられたり。蓋木を以て原祖アダムを誘ひし者は十字架にて誘はれ、暴虐を以て王の造物を抑制せし者は擲たれて、甚しきたおれにてたおる。神の血を以て蛇の毒は洗ひ去られ、不義なる裁判にて義者が定罪せられしを以て義なる定罪の詛は解かれたり。蓋木を以て木を醫し、無慾の者が木の上に受けし苦を以て定罪せられし者の苦を解くは宜しきに合へり。ハリストス王よ、光榮は我等に於ける爾り睿智なる摂理に帰す、爾は此を以て衆を救ひ給へり、仁慈にして人を愛する主なればなり。



光榮は父と子と聖神にきす今もいつも世世にアミン



萬民来たりて讃美たる木にふくはい せこれを以て
バンミン モツ



永遠の義は成就せられたりけだし木をもってアダムをいさ
エイエン ギョウジュ



ないしものは十字架にていざなわれしいたげを

もつて王の造物を制せしものはなげうたれていく

たおる神の血にてへびの毒はあらい去られ

不義なる裁判にて義者が定罪せられしをもって義なる

定罪の呪いはとかれたりけだし木を持って木をい

やし無欲のものが木の上に受けし苦しきをもつて

定罪せられし者の苦しきを多くは宜しきにかなえり

ハリス王や光栄は我等における汝がえいちなる

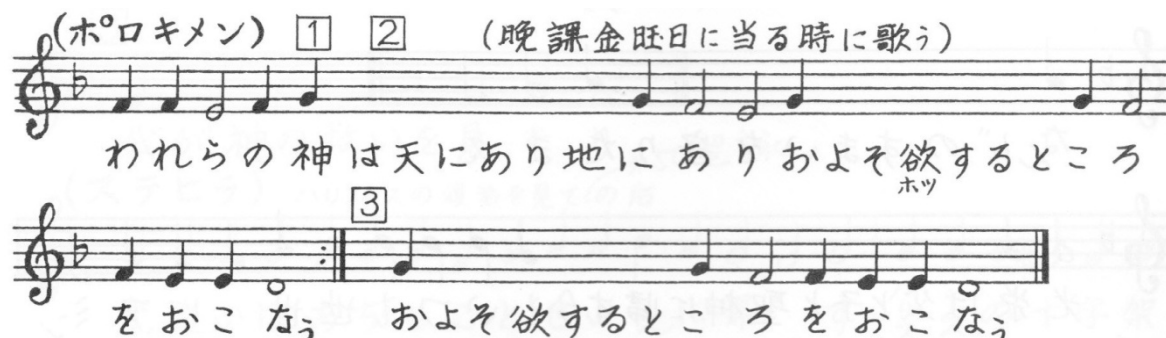
摂理に帰す汝はこれをもって衆を救いたまえり

仁慈にして人を愛する主なればなり

→通常部分 (P7/8「聖にして福たる」へ戻る

！！注意 **ポロキメン**

祭日が「スポタ」に当たる場合は、金曜日の晩に大提綱を歌ふ、第七調、我等の神は天に在り、地に在り、凡そ欲する所を行ふ。蓋「スポタ」の晩には「主は王たり」の提綱を歌ふ。



祭-2

パレミヤ（旧約聖書の読み） ▽祭日経 P882

エジプトを出づる記の読。（15－6章）。

モイセイはイスライリの諸子を紅海より導きて、スルの野に入りしに、彼等野を行くこと三日にして、飲まん為に水を得ざりき。メッラに至りしがメッラの水を飲むこと能わざりき、其の苦きを以てなり、故に此の處はメッラ（苦）と名づけられたり。民はモイセイに怨言して曰へり、我等何を飲まんか。モイセイ主によべり、主は一の木を示したれば、之を水に投ぜしに、水甘くなれり。彼處に神は民の為に律例と規定とを立て、彼處に彼を試み、且曰へり、爾若し慎みて主爾の神の声を聴き、其の悦ぶ所を行い、其の誠に耳を傾け、其の悉くの律例を守らば、我は我がエジプト人に加えし病を一も爾に加えざらん、蓋我は主爾を醫やす者なり。彼等エリムに至れり、其処に水の井十二、棕櫚七十株あり、彼等彼處に水の傍らに幕を張れり。エリムより出でて、イスライリの諸子の会衆はシオンの野、即エリムとシナイ山との間に在る處に来たれり。

箴言の読。（3章）

我が子よ、主の懲治を輕んずる勿れ、彼より責められて弱る勿れ、蓋主は愛する者を責め、凡そ納るる所の子を鞭うつ。智慧を求めたる人、聰明を得たる人は福なり、蓋智慧を市うは金銀の宝を市うに愈る、此れ宝石よりも貴し、何の惡も之に敵する能わず、此れ凡そ之に近づく者に著明なり、凡ての貴き物は之に比ぶるに足らず、其の右の手には長寿あり、其の左の手には富と榮えとあり、義は其の口より出で、律法と慈憐とは其の舌に在り、其の途は楽しき途なり、其の諸途は皆和平なり。此れ凡そ之を執る者には生命の樹なり、此に倚る者は福なり。

イサイヤの預言書の読。（60章）。

主是の如く言ふ、イエルサリムよ、爾の門は常に啓かれ、晝も夜も閉ざされず、諸民の貨財の爾の中に攜えられ、其の諸王の導かれて来らん為なり。蓋爾に事うるを欲せざらん諸民と諸王とは亡び、是くの如き諸国は全く荒らされん。リワンの光榮は爾に来たり、松と杉と黄楊樹とは共に来たりて、我が聖所の處を飾り、我は我が足を置く所を榮せん。爾を苦しめし者の諸子は服して爾に来たり、爾を藐どりし者は皆爾の足下に拝し、爾を主の城、イスライリの聖者のシオンと称えん。爾嘗て棄てられ、憎まれて、爾を過ぐる者なきに至りしが、之に代えて我爾を永遠の華美、世々の歡樂と為さん。爾は諸民の乳を哺い、諸王の富を食らい、而して我が主爾の救者、爾の贖罪者、イスライリの全能者たるを知らん。

(増連禱が終わったら)

祭-3**リティヤのスティヒラ**

▽祭日経 P884

第一調。(イエルサリムのアンジェレイの作)。

今日ダヴィドの聖なる言は誠に應へり、蓋視よ、我等は顕に爾の至潔なる足の臺に伏拝し、且爾が翼の蔭を恃みて、爾に呼ぶ、慈憐なる主よ、爾の顔の光を我等に顕し給へ。恩深きハリストスよ、爾の尊き十字架を挙ぐるを以て爾の正教の民の角を挙げ給へ。

(リティヤのスティヒラ)

いまダヴィドの聖なる言葉はまことにかなえりけだし

見よ我等汝の至潔なる足の台にふくはいしかつ

なんじがつばさの影をたのみて汝に呼ぶ慈憐なる主

やなん じのかんばせの光を我等にあらわしたまえ

めぐみふかきハリスト やなん じがとるとき十字架のあぐる

をもって汝が正教の民の角をあげたまえ

<以下省略>

髑髏の處に植えられたる眞の生命の樹、古世よりの王が其上に在りて救を地の中に作しし者は、今日挙げられて、地の四極を聖にし、復活の殿を新にす。天使等は天に在りて喜び、人々は地に在りて楽しみ、ダヴィドの如くよびて曰ふ、主我が神を崇め讃め、其足臺に伏し拝めよ、彼は聖にして世界に大なる憐を賜へばなり。

ハリストスよ、太祖イアコフは爾の十字架を預象して、孫に福を降す時、己の手を其首に交へたり。救世主よ、我等今日此を挙げてよぶ、コンスタンティンに敵に勝つをひし如く、我が皇帝に勝利を與へ給へ。

第二調。(フェオファン作)。

神聖なる寶、生命を施す主の十字架は地に隠されて、敬虔なる王に天に顕れ、靈妙の文を以て敵に對する勝利を示せり。

王は喜びて、信と愛とを以て神聖に明悟の高きに登りて、熱切に之を地の懷より取り出せり、世界の援助、我等の靈の拯救の為なり。

(キプリアンの作)。

太祖イアコフが子に福を降す時に手を交ふるは爾の十字架の権能の號を預め示せり。我等之を堅固なる守護と有ちて、勇ましく悪鬼の軍を逐ひ、ウェリアルウェリアルの驕傲を敗り、痛く敵するアマリクの害の甚しき力に勝つ。今も我等信者は敬虔の心を以て之を挙げて、諸罪の潔淨の為に爾の仁慈の前に捧げ、多くの声を以てよぶ、主よ、憐み給へ、童貞女より身を取りし仁慈の者よ、爾の手の巧妙なる造物に慈憐を垂れ給へ。

(帝レオの作)。

ハリストスの三重の十字架よ、爾は私の権能のおほひなり、爾の能力にて我を聖にせよ、我が信と愛とを以て伏拝して爾を讃栄せん為なり。

第四調

今日我等手を拍ち、歌頌して祝ひ、欣ばしき面と舌とを以て朗に呼ばん、ハリストスよ、爾は我等の為に裁判を受け、唾せられ、傷つけられ、赭き衣を衣せられ、十字架に上げられたり。日と月とは之を見て光を隠し、地は畏懼を以て震ひ、殿の幕は二に裂けたり。爾は今も爾の尊き十字架を我等に守護、防固、悪鬼を逐ふ者として與へ給へ、我等皆之に接吻して呼ばん為なり、十字架よ、爾の能力を以て我等を救へ、尊き十字架よ、爾の・煌を以て我等を聖にし、爾の上げらるるを以て我等を固め給へ、蓋爾は光及び我が靈の救として我等に賜はりたり。

(アナトリイの作)。

十字架よ、星にて光れる爾の形は敬虔なる大王に預め勝利の凱旋を示せり。其母エレナは之を覓め獲て、世界に顕れたる者と為せり。我等信者の会は今日爾を挙げて呼ぶ、生命を施す十字架よ、爾の・煌にて、我等を照せ、最尊き十字架よ、爾の能力にて我等を聖にせよ、諸敵を禦がん為に上げらるる者よ、爾の挙栄を以て我等を固め給へ。

光栄、今も、同調。(アナトリイの作)。

ハリストスよ、モイセイは尊き十字架の能力を預象して、シナイの野に於て仇敵アマリクに勝てり、蓋手を舒べて十字架の形を為しし時、民力を得たり。今は預象の事實我等の中に成れり、今日十字架は上げられて、悪鬼は逐はる、今日造物は皆朽壞より解かれたり、蓋十字架に因りて一切の賜は我等に輝けり。故に我等皆喜びて、爾に俯伏して曰ふ、主よ爾の工作は何ぞせ大なる、光栄は爾に帰す。

→通常部分へ戻る。 P11 リティヤへ

(リティヤが終わったら)

祭-4

挿句のスティヒラ ▽祭日経 P887

第五調。

慶べよ、生命を施す十字架、敬虔の勝たれぬ勝利、樂園の門、信者の堅固、教会の衛護、朽壞の敗られて虚しくせられ、死の権の踐まれ、我等が地より天に上げられし所以の者、敵すべからざる武器、悪魔の防禦、致命者の光栄、克肖者の眞の修飾、救の湊、世界に大なる憐を賜ふ者や。

句、主我が神を崇め讃め、其足臺に伏し拝めよ、是れ聖なり。

慶べよ、最尊き主の十字架、人類が詛より釋かれし所以の者、眞の喜の號、其挙栄を以て敵を逐ふ者、我等の補助、諸王の権柄、義者の堅固、司祭等の妝飾、記されてわざわいを脱れしむる者、我等が牧せ

らるる能力の杖、和平の武器、天使等が畏を以て環る者、世界に大なる憐を賜ふハリストスの神聖なる
光栄や。

句、神我が古世よりの王は救を地の中に作せり。

慶べよ、尊き十字架、瞽者の相、病者の醫師、衆死者の復活、朽壞に陥りし我等を起しし者、詛の釋か
れ、不朽の栄え、地上の者が神成せられ、悪魔の全く仆されし所以の者や。我等今日爾が司祭首の手に
て挙げらるるを見て、爾の上に挙げられし者を崇め、爾に伏拝して、豊に大なる憐を斟む。

光栄、今も、第八調。(修士イオアンの作)。

ハリストス神よ、我等罪なる者は今日爾の尊き十字架に伏拝す。樞モイセイは己を以て之を預象して、
アマリクを斃して勝ち、聖詠者ダavidも爾の足臺に伏し拝むを命じて、之を示せり。我等は不當の口
を以て、爾其上に甘じて釘せられし者を歌頌して祈る、主よ、盜賊と偕に我等を爾の國に入るに勝へさ
せ給へ。

→通常部分 P13「シメオン祝文」へ戻る

「聖三祝文」「至聖三者」「天主經」

司祭 ^{けだし} 蓋 国と権能と光栄は爾父と子と聖神^{いつ}に帰す、今も何時も世世に、
(詠) 「アミン」

(アミンに続いて)

祭-5

祭日のトロパリ 3 回

▽祭日經 P888

餅の祝福に讃詞、第一調。

主よ、爾の民を救ひ、爾の業に福を降せ、我が国に福を与え、爾の十字架にて爾の住處を守り給へ。三次。



并に尊貴なる十字架の詞の誦読。

→通常部分 P14「願わくは主の名は崇めほめられ……」へ戻る。

早課 六段の聖詠、大連禱に続いて

祭-6

主は神なり、祭日トロパリ ▽祭日経 P888

＜【主は神なり】日本では3回だが、本来は下記の句に続いて4回。第4句に続いてトロパリ。＞

主は神なり我等を照せり、主の名に依りて来る者は崇め讃めらる、

(第1句) 主を尊み讃めよ、彼は仁慈にして其憐は世世にあればなり、

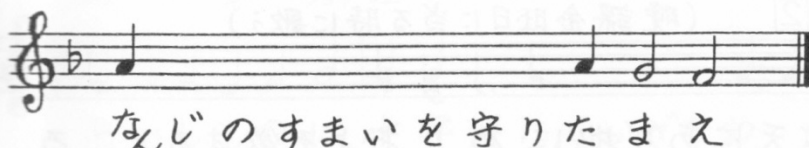
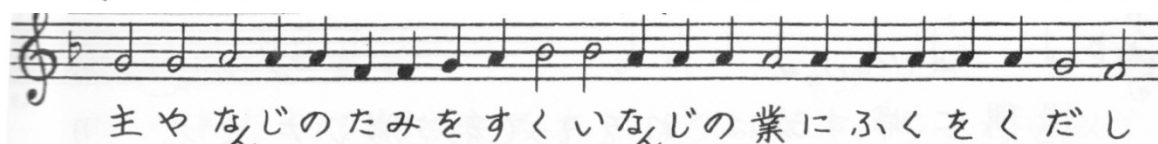
(第2句) 彼等我を囲み我を環れども、我主の名を以て之を敗れり、

(第3句) 我死せず、猶生きて主の行ふ所を伝へん、

(第4句) 工師が棄てし所の石は屋隅の首石となれり、是主のなす所にして我等の目に奇異なりとす、

「主は神なり」に祭日の讃詞、三次。

主よ、爾の民を救ひ、爾の業に福を降せ、我が国に福を与え、爾の十字架にて爾の住處を守り給へ。



＜カフィズマ、セダレンは省略＞

→通常部分へ戻る P17【ポリエレイ】へ

<カフィズマ省略><坐誦讃詞省略>

ポリエレイに続いて讃歌

祭-7

【讃歌】（讃歌はロシア系のみの伝統なので祭日経には出ていない。▽[接続歌集 P342](#)

（ズナメニイのメロディによる）

生命を賜ふハリストスよ、我等爾を讃揚して、爾が我等を敵の奴隷より救ひし聖なる十字架を尊む。

（句）、主よ、我と争ふ者と争ひ、我と戦ふ者と戦ひ給へ。

（句）、盾と甲とを執り、起ちて我を助け給へ。

（句）、主よ、爾の顔の光を我等に顕し給へ。

いーのちをたまう ハリス トス や、

われら なんじを 讃一 揚一 し て

なんじが われらを 敵の 奴隷 より すく一 いし

聖なる 十字架を と 尊 と一 む

ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ ア - リ ル - イ ヤ

[→通常部分 P18 へ戻る](#)

【小連祷】【アンティフォン】 4 調

祭-8

提綱、第四調。▽[祭日経 P890](#)

凡そ地の極は我が神の救を見たり。句、新なる歌を主に歌へ、蓋彼は奇跡を行へり。

およそ 地の はては 我が 神の すくいを見たり

（詠） 凡そ呼吸ある者は主を讃め揚げよ、（2回半）

輔祭 (句) 神を其聖所に讃め揚げよ、彼を其有力の穹蒼に讃め揚げよ、

(詠) 凡そ呼吸ある者は主を讃め揚げよ、(2回半)

輔祭 凡そ呼吸ある者は

(詠) 凡そ呼吸ある者は主を讃め揚げよ、(2回半)

輔祭 我等に聖福音經を聴くを賜うを主・神に祷らん、

(詠) 主憐めよ、3次

輔祭 睿智肅みて立て、聖福音經を聴くべし、

司祭 衆人に平安、

(詠) 爾の神にも、

司祭 ルカ伝の聖福音經の読み、<福音經はイオアン 42 端なかばより>

(詠) 主や、光榮は爾に歸す、光榮は爾に歸す、

主曰へり、父よ爾の名を榮せよ時に天よ。時に天より聲来たりて云ふ、我已に之を榮せり、且復之を榮せん旁に立ちて聞きし民は曰へり、雷の震ひしなり、他の者は曰へり、天使の彼に語りしなり。イイスス答へて曰へり、此の聲の有りしは、我の為に非ず、乃爾等の為なり。今斯の世は審判せらる、今斯の世の君は外に逐はれん。我が地より挙げられん時は、衆を引きて我に就かしめん。彼が此を言ひしは、其何の死を以て死せんとするを示しゝなり。民彼に對へて曰へり、我等律法に、ハリストスは世に存すと、言へるを聞けり、爾何ぞ人の子は挙げらるべしと言ふ、此の人の子は誰ぞ。イイスス彼等に謂へり、尚少時光は爾等と偕に在り、光ある間に行け、暗の爾等を蔽はざらん為なり、暗に行く者は何へ往くを知らず。爾等光ある間に、光を信ぜよ、光の子と為らん為なり。

(詠) 主や、光榮は爾に歸す、光榮は爾に歸す、

Handwritten musical score for the hymn "Glory to Thee, O Christ, who alone are without sin". The score is written on five staves in G major (one sharp) and 4/4 time. The lyrics are in Japanese, with some words written in katakana for emphasis or pronunciation. The lyrics are:
1. ハリスのふくかつをみて聖なる主イイスス独り罪なきものを
2. おがむべしハリスや我等なんじの十字架をおがみ
3. 汝の聖なる復活をうたいほむ 汝は我等の神なれば
4. なり汝の外他の神を知らずただ汝の名をとの
5. 信者やみな来たりてハリスの聖なる復活を拝むべし

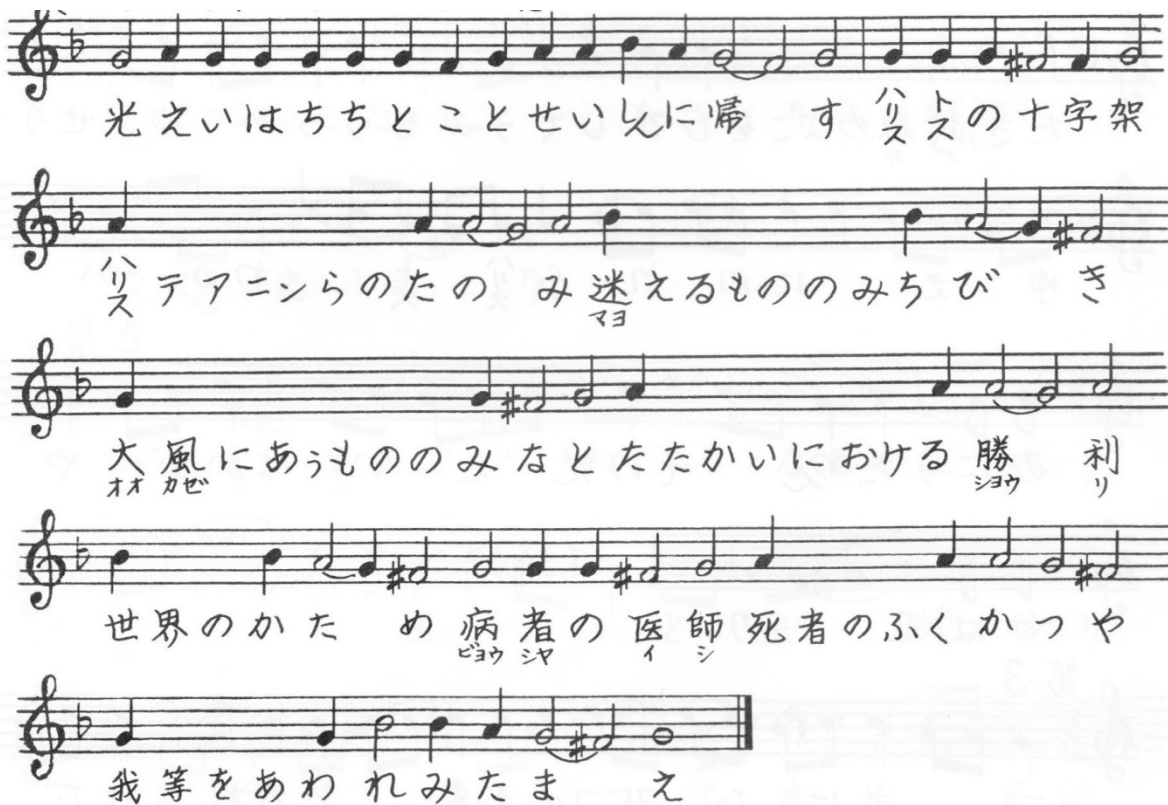


50 聖詠 読む (交替で祝福を受けに行く)

祭-9 福音後のスティヒラ ▽祭日経 P859

讃頌、第六調。

ハリストスの十字架、「ハリストティアニン」等の^{たのみ}倚望、迷ふ者の^{ぐふう}導ち引き、^{みなと}颶風に遭ふ者の投泊、戦いに於ける勝利、世界の堅固、病者の医師、死者の復活よ、我等を憐め。



→通常部分 P20 へ戻る

【輔祭「神よ、爾の大いなる憐れみによって…」と「主憐れめよ」12回】(アミンに続いてカノンへ)

祭-10 カノン ▽祭日経 P892

規程は十字架の。コスマ師の作。其冠詞は、十字架を頼みて歌頌を捧ぐ。「イルモス」二字、讃詞十二句に。第八調。

第一歌頌

イルモス、モイセイは杖を以て十字架の縦を象りて、徒歩にて行けるイズライリのの為に紅の海を撃ち分ち、ファラオンの兵車に向ひては、勝たれぬ武器の横を記して、海を撃ち合せたり。故に我等ハリストス吾が神に歌はん、彼光栄を顕したればなり。

第1歌頌

モイセイは杖を^{つえ}もって 十 字 架 の 縦 を かたど^{たて}りて 象^象。

徒歩にて 行ける イズライリの た め に うみを 撃ち 分 か ち。

ファラオンに 向 かいては 勝 たれぬ 武器の^{よこ}横 を しるして。

うみを^海 撃ち あわせたり ゆえに 我等 ハリストス。

我が神 に うた わん 彼 光栄を 顕わ したれ ば な り。

(附唱)主よ、光栄は爾の聖なる十字架に帰す

昔モイセイは司祭等の間に立ちて、己を以て至浄なる苦を預象し、舒べたる手にて十字架を形り、勝利の旗を挙げて、兇暴なるアマリク的能力を滅せり。故に我等ハリストス吾が神に歌はん、彼光栄を顕したればなり。

(附唱)主よ、光栄は爾の聖なる十字架に帰す

モイセイは良薬を柱に挙げて、命を奪ふ毒悪の噛傷を醫し、地に匍ふ蛇を十字架を形れる木に縛りて、禍に勝てり。故に我等ハリストス吾が神に歌はん、彼光栄を顕したればなり。

光栄、今も

天は敬虔なる有権者、神智の王に十字架の勝利の號を顕せり、此を以て悪敵の兇暴は敗られ、迷は散らされ、神の教は地の涯まで弘まれり。故に我等ハリストス吾が神に歌はん、彼光栄を顕したればなり。

第三歌頌

イルモス、杖は秘密の預象として受けらる、蓋芽を出すに因りて司祭を指し示せり。嘗て實を結ばざる教会にも今十字架の木は華さきて、其権力及び堅固と為れり。

第3歌頌

杖は 秘密の 預象として 受けらる けだし 芽を 出すに因りて
 司さいを 指ししめ せり かつて 実を結ばざる教会にも
 今 十字架の木 は はな さきて 其の ちから 及び
 かため と な れ り
 堅

(附唱) 主よ、光栄は爾の聖なる十字架に帰す

磐は撃つに因りて不順にして剛愎なる民に水を注ぎて、神の召し給ひし教会の秘密を象れり、蓋十字架は其権力及び堅固なり。

光栄、今も

其の至潔なる脇が戈にて刺されし時、約を改め罪を浄むる水と血とは出でたり、蓋十字架は信者の誉、諸王の権力及び堅固なり。

<坐誦讃詞省略>

三重に福なる生活を施す十字架よ、人々は爾を祭りて、無形の軍と偕に祝ひ、司祭首の会は敬みて爾を歌頌し、修士及び守齋者の大数は爾に伏拝し、我等衆は爾の上に釘せられしハリストスを讃栄す。

【小連禱】

輔祭 我等安和にして主に祷らん、

(詠) 主 憐れめよ

輔祭 上より降る安和と我等が^{たましい}霊の救いの為に主に祷らん、

(詠) 主 憐れめよ

輔祭 至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光栄の女宰・生神女^{しょうしんじょ}・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、并に^{ことごと}悉くの我等の^{いのち}生命を以て、ハリストス神に委託せん、

(詠) 主 爾に

司祭 (高声) 蓋爾は我等の神なり、我等光栄は爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に、(詠)「アミン」

第四歌頌

イルモス、主よ、我爾が摂理の秘密を聆き、爾の作為を悟り、爾の神性を讃栄せり。



(附唱)主よ、光榮は爾の聖なる十字架に帰す

昔モイセイは野に於て木を以て苦き泉を變じて、十字架に藉りて異邦民が敬虔の教に帰するを象れり。

(附唱)主よ、光榮は爾の聖なる十字架に帰す

イオルダンは斧を深處に匿し、木に藉りて之を返して、十字架と洗礼とに依りて迷の絶たるるを示せり。

(附唱)主よ、光榮は爾の聖なる十字架に帰す

民は前兆をなす證詞の幕に先だちて、聖軍に於て四部に分たれ、十字形の列に依りて光榮を得たり。

光榮は、今も

奇妙に懸りたる十字架は日の如き光線を放ち、天は吾が神の光榮を伝へたり。

第五歌頌

イルモス、嗚呼ハリストス王及び主が懸りたる木は三重に福なる哉。木を以て誘ひし者は爾に誘はれて墜ちたり、神我が靈に平安を賜ふ者は身にて爾の上に釘せられしに因る。



(附唱)主よ、光榮は爾の聖なる十字架に帰す

ハリストスが懸り給ひし十字架、常に讃詠せらるる木よ、エデムを守護する旋る剣は爾に耻ぢ、畏るべきヘルウィムは爾の上に釘せられしハリストス、吾が靈に平安を賜ふ主の前より退けり。

(附唱)主よ、光栄は爾の聖なる十字架に帰す

地獄の敵軍空中に居る者は、空中に畫する十字架の記號に戦き、天上地下の諸族は吾が靈に平安を賜ふハリストスの前に膝を屈む。

光栄は、今も

神聖なる十字架は淨き光線の中に顕れ、心を奪ふ迷に味まされし諸民を神聖なる光にて照して、此を其上に釘せられしハリストス、吾が靈に平安を賜ふ主に属せしむ。

第六歌頌

イルモス、イオナは海の猛獸の腹の内に手を十字形に伸べて、明に救を施す苦を象れり、三日の後にいでて、身にて釘うたれ、三日目の復生を以て施界を照ししハリストス神の天然に超ゆる復活を預象せり。

第6歌頌



イオナは 海の猛獸の 腹のうちに 手を十字型に
伸べて 明らかに 救いを施す 苦しみを かたどれり、
三日ののちに いで 身にて釘打たれ 三日目の 復生を 以て
世界を照らし し ハリストス かみの 天然に超ゆる 復活を
預象した まえり

(附唱)主よ、光栄は爾の聖なる十字架に帰す

年老いて衰へ、病みて弱りたるイアコフは、手を交へ置く時に、堅固なるを得て、生活を施す十字架の力を顕せり、蓋此の上に身にて釘せられし神は影なる文の律法の舊きを新にし、靈を害ふ迷の疾を逐ひ給へり。

光栄は、今も

神聖なるイズライリは十字形に手を少者の項に按きて、長子が律法の下に在りて神に務むる民を示すを顕せり、人が之を誤れりと云ふ時、彼は生活を施す號を改めずして呼べり、ハリストス神が新に植え、十字架にて守らるる民は秀づるあらん。

【小連禱】

輔祭 我等安和にして主に禱らん、

(詠) 主 憐れめよ

輔祭 上より降る安和と我等が^{たましい}霊の救いの為に主に祷らん、 (詠) 主 憐れめよ

輔祭 至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光荣の女宰・^{しょうしんじょ}生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、并に^{ことごと}悉くの我等の^{いのち}生命を以て、ハリストス神に委託せん、 (詠) 主 爾に

司祭 (高声) 蓋爾は平安の王及び我が霊の救主なり、我等光荣は爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に、 (詠) 「アミン」

小讃詞、第四調

甘じて十字架に上げられしハリストス神よ、爾が同名の新なる住處に爾の慈憐を賜へ。爾の力を以て我が国を司る者を助け、~~皇帝を楽しましめて、彼に敵に勝たしめ給へ、~~彼は爾の援助として平安の武器、勝たれぬ旗を有てばなり。

同讃詞

第三重の天に樂園に挙げられて、道ひ難き神聖なる言、人の舌を以て語る能はざる所を聞きし者は、何をかガラティヤ人に達して書する書を愛する者の読みて知れるが如し、曰く、我に在りては唯主の十字架、主が其上に苦を受けて諸慾を殺しし者の外に誇る所なしと。我等衆も此の主の十字架を堅く有ちて誇と為すべし、蓋此は我等の為に救の木なり、平安の武器、勝たれぬ旗なり。

第七歌頌

イルモス、不虔なる苛虐者の恐嚇と聞くに堪へざる神に於けるそしりとを吐く無智なる命令は民を擾せども、三人の少者は残忍の怒と滅亡の火とを懼けずして、露を送る風に涼しくせらるる焰の中に在りて歌へり、讃詠せらるる先祖と我等との神よ、爾は崇め讃めらる。

第7歌頌



不虔なる 苛虐人の恐嚇と 聞くに たえざる 神に於ける

そしりとを吐く無知なる 命令は 民を 満たせども

三人の 少者は 残忍の怒りと 滅亡の火をはなれずして

露を送る風に 涼しくせらるる ほのおのうちに在りて



(附唱)主よ、光栄は爾の聖なる十字架に帰す

初の人木は木の果を食ひ、朽壤に服して、命を失ふ辱に定められ、肉體の病毒の如くなりて、全人類に病を伝染せしめたり、然れども我等地に生るる者は十字架の木に藉りて救はるるを獲て呼ばん、讃詠せらるる先祖と我等との神よ、爾は崇め讃めらる。

(附唱)主よ、光栄は爾の聖なる十字架に帰す

不順は神の誠を破り、木は其果を時ならず食ふに因りて人を死に致せり、故に福たる生命の樹は禁ぜられて隔れり、智慧は死する盜賊の為に復之に往く途を闢けり、蓋彼呼べり、讃詠せらるる先祖と我等との神よ、爾は崇め讃めらる。

光栄は、今も

未来を見透すイブライリはイオシフの杖の頭に首を俯して、至栄なる十字架が王権の力を獲んとするを預象せり、蓋是は諸王の為に勝を獲る誉、信を以て、讃詠せらるる先祖と我等との神よ、爾は崇め讃めらると呼ぶ者の為に光なり。

第八歌頌

イルモス、聖三者と同数なる少者よ、神父造物主を崇め讃め、降りて火を露に變ぜし言を讃め歌ひ、萬有に生命を施す至聖神[°]を世々に尊み崇めよ。



(附唱)主よ、光栄は爾の聖なる十字架に帰す

身を取りし神言の血の灑がれたる木を挙ぐる時、天軍は歌ひて、地上の者の復生を祝へ、諸氏はハリス

トスの十字架に伏拝せよ、此に因りて復活は世界に世々に賜はりたればなり。

(附唱) 主よ、光栄は爾の聖なる十字架に帰す

地に在りて恩寵を司る者よ、敬みて手を以てハリストス神が釘せられし十字架と、神言の肉體の刺されし戈とを挙げよ、萬民が神の救を見テ彼を世々に讃栄せん為なり。

父と子と聖神の一なる神を讃め揚げん、今も何時も世々にアミン

神の旨に由りて預選せられたる虔誠なる諸王、ハリストスを奉ずる者よ、喜べ、神より尊き十字架を受けて、此の勝利の武具を己の誉と為せ、蓋此に藉りて残忍なる戦を挑む諸族は世々に敗らる。

第九歌頌に「ヘルウィムより尊く」を歌はずして、聖日の附唱を歌ふ。

(附唱) 我が霊よ、最尊き主の十字架を讃め揚げよ。

イルモス、生神女よ、爾は奥密なる樂園、耕作せられずしてハリストスを生育せし者なり、彼は地上に生命を施す十字架の木を植え給へり、故に今之を挙ぐる時、我等之を拝みて、爾を崇め讃む。

第9歌頌 附唱



我が たましいよ いと 尊とき主の十字架を 讃め あげよ。

生 神女よ、爾は 奥密 なる ら 園 耕さく せられずして

ハリストス を 生育せし もの なり かれは地上に いのちを施す

十字架の木を 植え たま えり 故に 今 これを 挙ぐる とき

われら これを おがみて なんじ を あがめ 讃 む

(附唱) 我が霊よ、最尊き主の十字架を讃め揚げよ。

林の諸木は喜ぶべし、蓋其性は元始に此等を植え給ひしハリストス、木に懸りたる者に藉りて聖にせられたり、故に今之を挙ぐる時、我等之を拝みて、爾を崇め讃む。

光栄は、今も

神智者の為に萬有の首の聖にせられし角たる十字架は挙げられたり、之に藉りて罪人等の悉くの角は奇妙に折かる、故に今之を挙ぐる時、我等之を拝みて、爾を崇め讃む。

<以下省略>

【小連禱】

輔祭 我等安和にして主に祷らん、 (詠) 主 憐れめよ
 輔祭 上より降る安和と我等が^{たましい}霊の救いの為に主に祷らん、 (詠) 主 憐れめよ
 輔祭 至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光荣の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、并に^{ことごと}悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、 (詠) 主 爾に
 司祭 (高声) 蓋天の衆軍爾を讃揚す、我等も光荣は爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に、 (詠) 「アミン」

光耀歌

十字架は全世界の守護、十字架は教会の妝飾、十字架は諸王の構柄、十字架は信者の堅固、十字架は天使の光荣、及び悪魔の苦悩なり。二次。

光荣、今も、

今日十字架は挙げられて、世界は聖にせらる、蓋父及び聖神[°]と偕に坐する者は其の上に手を伸べたり、此は全世界を引きて、ハリストスよ、爾を識る知識に就かしめたり。求む、爾を恃む者を神聖なる光荣に堪ふる者と為し給へ。

祭 11

【讃揚歌とスティヒラ】▽祭日経 P900

「凡そ呼吸ある者」に四句を立てて讃頌を歌ふ。第八調。



およそいぎあるものは主をほめあげよ 天より主を
 ほめあげよ 至と高きにかれをほめあげよ ほめ
 うたはな^じかみに帰す そのことごとくの神使や
 かれをほめあげよ そのことごとくの軍やかれをほめ
 あげよ ほめ歌はな^じかみに帰す

<以下スティヒラ省略>

嗚呼至榮なる奇蹟や、生命を施す植物たる至聖なる十字架は今日高く挙げられて現る、地の四極は讃榮し、悪魔の群は戦慄す。嗚呼如何なる賜か地上の者に賜はりたる、ハリストスよ、此を以て我等の霊を救ひ給へ、爾毒慈憐の主なればなり。二次。

嗚呼至榮なる奇蹟や、生命を満つる葡萄の實の如く、至上者を撃ぐる十字架は今日地より挙げられて見らる。此を以て我等皆神に就くを得、死は全く滅されたり。嗚呼最尊き木や、爾に藉りて我等ハリストスを讃榮する者はエデムに於て不死の糧を獲たり。

嗚呼至榮なる奇蹟や、十字架の縦横は天に齊し、蓋神聖なる恩寵にて萬有を聖にす、此を以て夷狄は勝たる、此を以て諸王の権柄は固めらる。嗚呼神聖なる梯や、我等主ハリストスを歌ひて崇むる者は之に藉りて天に升る。

光榮、今も、第六調。

今日主の十字架は現れ出づ、諸信者は愛を以て之を承けて霊と體との諸病を醫さるるを得。我等喜且畏を以て之に接吻せん、畏を以てするは罪ありて不當なるに因り、喜を以てするは之に釘せられしハリストス神、大なる憐を有つ主が世界に賜ふ所の救に因りてなり。



光榮は父と子と聖神に歸す今もいつも世世にアミン

今主の十字架はあらわれいず諸信者は愛を以てこれを
うけ てたましいと体との諸病を医さるるを得われら
喜びかつ畏れてこれに接吻せんおそるるは罪ありて
不當なるにより喜ぶはこれに釘せられしハリストス神
大なる憐みを保つ主が世界に給うところのすくい
によつてなり

→通常部分 P22 に戻る 【大詠頌】を歌う

大頌栄、「聖なる神」を歌うとき、司祭は十字架を捧出し、中央の台に安置。

「聖なる神」は通常のものでも、埋葬式の時の「聖天主」でもかまわない。

祭 12 【祭日トロパリ】 第1調

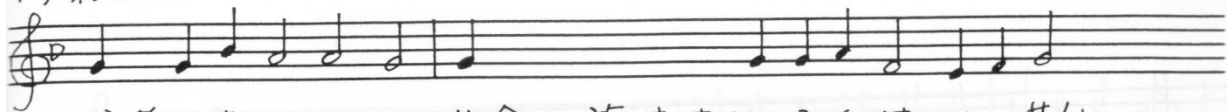
主よ、爾の民を救ひ、爾の業に福を降せ、我が国に福を与え、爾の十字架にて爾の住處を守り給へ。



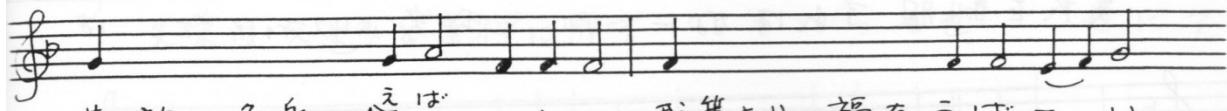
尊貴なる十字架に接吻する時、十字架の讃頌を歌ふ。第二調。祭日経 P902

信者よ、来りて、生命を施す木に伏拝せん。昔敵は逸樂を餌にして我等より福を奪ひ、我等を神より遠ざけられし者と為せり、今ハリストス光榮の王は甘んじて其上に手を舒べて、我等を初の福に挙げ給へり。信者よ、来りて、聖なる木に伏拝せん、我等は此を以て見えざる敵の首を砕くに堪ふる者と為れり。諸族諸民よ、来りて、歌を以て主の十字架を尊まん。墜ちたるアダムの全き救なる十字架よ、慶べ、虔誠なる諸王は爾を以てほこりと為す、爾の力に因りて異民を制服すればなり。我等「ハリストティアニン」は今畏を以て爾に接吻して、爾の上に釘せられし神を讃栄して曰ふ、其の上に釘せられし主よ、我等を憐み給へ、爾は仁慈にして人を愛する主なればなり。＜楽譜次ページ＞

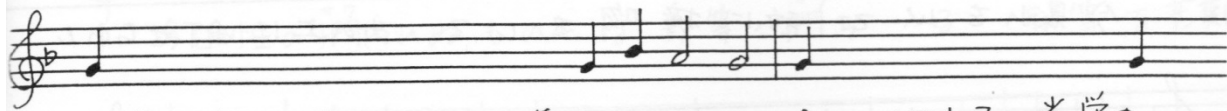
十字架のステラノ
十字架のステラノ



信者よ来たりて 生命を施す木に ふくはい せん



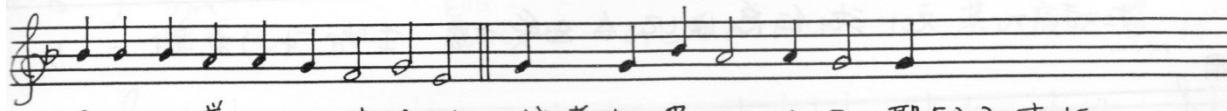
昔、敵は逸樂を餌^{えは}にして 我等より 福をうばー い



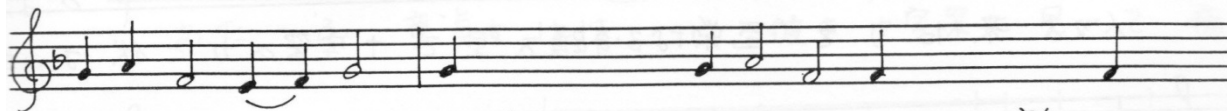
我等を神より遠ざけられし者と なせり 今ハリストス、光榮の



王 は、せんじて その上に手を舒べーて 我等を初めの



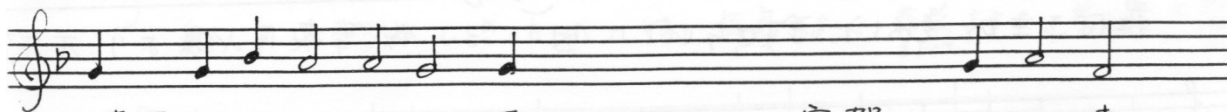
ふくに挙げたまえり 信者よ来たりて 聖なる木に



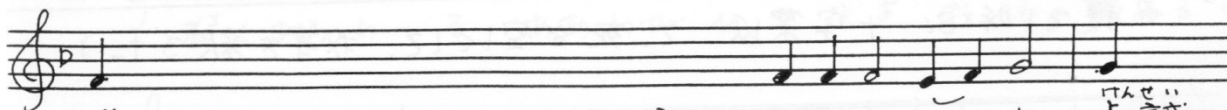
ふくはい せん 我等は此の山を以て 見えざる敵の



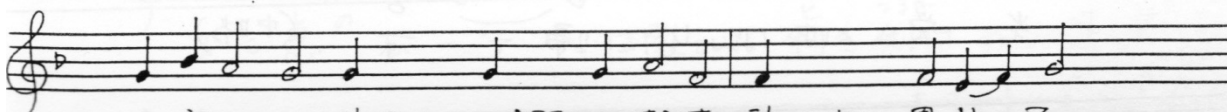
かしら を砕くに堪ふるものとなしーり 諸族



諸民よ来たりて 歌を以て 主の十字架をとらと まん



墜ちたるアダムの全き救いなる十字架よ よるこべ^{ひんげい}よ 虔誠



なる 諸王は 汝を以て 官羽^{かんう}となす 汝の力に因りて



第五調。

人々よ、来りて、至栄なる奇蹟を見て、十字架の力に伏拝せん、蓋木は樂園に死を生ぜり、然れども此の木は生命の華を發けり、罪なき主が其の上に針せられしに因る。我等衆民彼より不朽を獲て呼ぶ、十字架を以て死を空しくして、我等を釋きたる主よ、光栄は爾に歸す。

同調

神よ、爾の預言者イサイヤ及びダウィドの言は應へり、云く、主よ、萬民来りて、爾の前に伏拝せんと、蓋視よ、爾仁慈なる主の恩寵に満てられたる民は爾のイエルサリムの庭に在り。我等の為に十字架を忍びて、爾の復活を以て活かし給ふ主よ、我等を守りて救ひ給へ。

第六調

ハリストス我が神よ、今日爾の四出の十字架は挙げられて、四極の世界は聖にせられ、我が皇帝の角は高くなりて、諸敵の角は折かる。主よ、爾の所為に於て爾は大にして奇妙なり、光栄は爾に歸す。

同調

諸預言者の声は聖なる木、アダムが此を以て古の死の詛より釋かれし者を預言したり。造物は今日其挙げらるるを見て、共に声を揚げて、大なる恩を神に求む。独慈憐の測り難き主宰よ、我等の為に潔淨と為りて、吾が靈を救ひ給へ。

第八調

神よ、爾の預言者モイセイの言は應へり、云く、爾等の生命が爾等の目の前に懸れるを見んと。今日十字架は挙げられて、世界は迷より釋かる。今日ハリストスの復活は新にせられて、地の四極は喜び、ダウィドの如く琴を以て歌を爾に奉りて云ふ、神よ、爾は救を地の中に作せり、是れ十字架及び復活、爾が、仁慈にして人を愛する主よ、我等を救ひ給ひし者なり。全能の主よ、光栄は爾に歸す。

同調

今日造物の主宰、光栄の主は十字架に釘せられ、脅を刺さる。教会の甘味たる者は膽と醋とを嘗む、雲を以て天を覆ふ者は棘の冠を冠せられ、侮辱の衣を衣せらる。手を以て人を造りし者は朽つべき手にて批たる、雲を以て天に服する者は頬を批たれ、唾及び傷、辱及び笞を受く。我の贖罪主并に神は、慈

憐なるに因りて、我定罪せられし者の為に一切を忍ぶ、世界を迷惑より救はん為なり。

光栄、今も、同調。

今日性の捫られぬ者は我に捫らる、我を苦難より解く者は苦難を受く。譬に光を賜ふ者は不法の口より唾せられ、虜にせられし者の為に其肩を苔に予ふ。至浄なる童貞女母は彼を十字架に見て、痛く衷しみて曰へり、嗚呼吾が子よ、何ぞ之を為したる、衆人より美しき者は氣息なく、華栄なく、美しき容なき者と現る。嗚呼吾が光よ、我爾の寝ぬるを見るに忍びず、心は裂かれ、利き剣は我が霊を貫く。我爾の苦を尊み歌ひ、爾の慈憐に伏拝す、恒忍の主よ、光栄は爾に帰す。

→通常部分 P27 に戻る

【重連祷、増連祷】 早課の終わり。発放詞。

時課

<時課の変更箇所は、トロパリコンダクのみ>

讃詞 1 調

主よ、爾の民を救ひ、爾の業に福を降せ、我が国に福を与え、爾の十字架にて爾の住處を守り給へ。三次。

小讃詞、第四調。

甘じて十字架に上げられしハリストス神よ、爾が同名の新なる住處に爾の慈憐を賜へ。爾の力を以て我が国を司る者を助け、~~皇帝を楽しまして、彼に敵に勝たしめ給へ~~、彼は爾の援助として平安の武器、勝たれぬ旗を有てばなり。